

豊田市メタバーズ将来ビジョン（概要版）

検討の背景とメタバーズの潮流

- コロナ禍でオンラインの需要の高まりを背景に、メタバーズは新たなデジタルツールとして注目された。企業や行政においてメタバーズを活用した様々な取組が行われ始めている。
- メタバーズは、デバイスごとの操作性の違いや利用者のリテラシーの差など様々な課題がある一方で、いつでもどこでもアクセスでき、自己開示における有用性が認められる。
- 今後もメタバーズ市場規模はさらに拡大が予測され、行政としても地域課題の解決に可能性があることから、動向を注視したメタバーズの活用気運が高まっている。

ビジョン

※目指すべき姿（2030年）

メタバーズが今後、重要な社会インフラとなっていくことを見据え、施策推進を行いながら、地域社会に資する取組へと昇華していく

豊田市におけるメタバーズを活用した新たな価値の創造



考え方

- ① 価値が発揮できそうな分野から挑戦する → 小さく始めて、PDCAサイクルを回し、効果を検証する
- ② 誰もがメタバーズに触れられる環境をつくる → 個人差を考慮するとともに、メタバーズ活用のハードルを下げる工夫をする
- ③ 中長期的な目線を持ち続けながら運用する → メタバーズは発展途上であるため、動向を注視し随時改善する

活用方針

- ・メタバーズは、バーチャル空間において、現実世界と同等又はそれ以上の体験を提供することが可能である。
- ・利用者がアバター等を用いることで、自己開示や自己表現において、効果的かつ心理的負荷が軽減されることから、コミュニケーションを始めとした様々な社会課題に効果的に活用することができる。
- ・メタバーズは今後、地域課題解決に資する重要な社会インフラとなる。



『地域全体でチャレンジできる「自治体メタバーズ」豊田市モデル』

- ① メタバーズの将来的な進化や普及を見据え、様々な目的で利用することができる「豊田市メタバーズ共通基盤」を構築する。
- ② 中長期的な視点を持ち、行政以外の主体的な取組も支援しながら、地域全体におけるメタバーズ活用を推進する。
- ③ 地域全体でメタバーズ活用にチャレンジする取組は、全国の地方自治体に先駆けた取組であり、他自治体へのモデルとして市民と共に新しい取組を推進する。
- ④ 同時に、構築したメタバーズの評価や試行的な実践を行いながら、事業の方向性や技術の価値を検証していく。

実証実験

活用方針の内容を検証するため、①幅広くアクセスできる空間と②没入度の高い空間で計4回の実証実験を行った。

仮説

メタバーズにはコミュニケーションにおいて「自己開示」などを促進する効果があり、豊田市の社会課題を解決する可能性がある

【実証内容】

- ①-1 「メタバーズ相談空間体験会」：福祉
 - ・引きこもりの方のご家族を対象とした相談会
- ①-2 「メタバーズ先輩職員懇談会」：人事
 - ・学生を対象とした就職相談会
- ①-3 「ほっと親の会inメタバーズ」：教育
 - ・不登校児童生徒のご家族を対象とした座談会
- ② 「メタバーズで世界に飛び出そう！」：教育
 - ・不登校児童生徒を対象とした体験会

▶メタバーズ空間



▶VRを活用した実証



結果

10～40代を対象とした企画において、コミュニケーションのしやすさについて一定の評価を得ることができ、行政課題の解決に可能性がある結果となった。一方で、全体を通してデジタルデバイスへの対応、メタバーズへの理解、イベントの企画設計については今後の課題となった。

今後の取組（ロードマップ）

主にコミュニケーションにおいての課題を解決する手段として、豊田市メタバーズ共通基盤を導入することに加え、メタバーズを使った取組の支援や、担い手の育成、理解促進、ノウハウの共有体制の構築、市内メタバーズ施策の整理等の施策を検討し、メタバーズが今後重要な社会インフラになることを見据え、将来的に地域全体でのメタバーズ活用に向けた取組を全方位的に進めていく。

2024年度については、豊田市メタバーズ共通基盤の構築と運用、理解促進と普及啓発、支援策の検討、市役所内の知見集約、動向調査を実施予定。

→ おおむね3～5年を目途に基盤の評価を行い、継続・拡充の可否を判断する。